

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

1. 【学力面について】（平均正答率や課題等について）

【国語A問題】（主として知識に関する問題）

本校が、全国・大阪府平均を上回った分類・区分はなかった。全国平均正答率（以下「全国」とする）に比べて5%以上下回った分類・区分は『評価の観点』の「話す・聞く能力」のみで、全国平均に比べ、7.3%下回る結果となった。

【国語B問題】（主として活用に関する問題）

本校が、全国・大阪府平均を上回った分類・区分はなかった。全国に比べて最も大きく下回った分類・区分は『評価の観点』の「言語についての知識・理解・技能」で、全国に比べ10.8%下回り、次いで「書く能力」で7.8%下回る結果となった。

【数学A問題】（主として知識の関する問題）

本校が、全国・大阪府平均を上回った分類・区分はなかった。全国に比べて10%以上下回った分類・区分は『学習指導要領の領域』の「資料の活用」であり、全国に比べ13.3%下回る結果となった。また、無解答率が4%を超えた設問は『学習指導要領の領域』の「数と式」及び「資料の活用」であった。上記設問の無解答率が4%を超えていることから、「等式の性質や最頻値、確率、相対度数」といった語句の意味を理解していないことがうかがえる。

一方で、平均無解答率は全国に比べて、あまり差がないことから、生徒はどのような問題形式でも一生懸命に取り組もうとする意欲があることがわかる。また、『数と式』の「技能」の正答率は区分の中でも一番高く、基礎的・基本的な技能は身につけていると考えている。しかし、語句の意味を十分に理解していない生徒が多く、知識の定着が課題である。

【数学B問題】（主として活用に関する問題）

本校が、全国・大阪府平均を上回った分類・区分はなかった。全国に比べて最も大きく下回った分類・区分は『評価の観点』の「技能」であり、全国に比べ9%下回る結果となった。また、無解答率が7%を超えた設問は『学習指導要領の領域』の「図形」及び「資料の活用」であった。上記設問の無解答率が7%を超えていることから、語句の意味を理解し、その語句を用いて適切に表現することに課題がみられる。

平均無解答率は全国に比べ1.6%高い。ただ、問題文やグラフを読み取り答える設問の正答率が70%を超えており、文章をよく読み、あきらめずに答えを出そうとする意欲がみられる。正解にならなかったのは、誤った表現の記述をして間違えている生徒が多く、知識の定着が課題である。

【理科】

本校が、全国・大阪府平均を上回った分類・区分はなかった。全国に比べて10.0%以上下回った分類・区分は、『評価の観点』の「観察・実験の技能」及び『問題形式』の「短答式」と「記述式」であり、全国に比べ、「観察・実験の技能」では11.0%、「短答式」と「記述式」ではそれぞれ10.0%下回る結果となった。ただし、平均無解答率では、全国・大阪府と大きな差はなく、設問に対して解こうとする意欲は見られた。

2. 【生活面や学習状況について】（生徒質問紙から）

※数字は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計

①規則正しい生活に関する調査

「毎朝朝食を食べている」→87.2%（昨年比－2.5%） 府89.0% 全国91.9%
「毎日同じくらいの時刻に寝ている」→68.0%（昨年比－1.7%） 府72.1% 全国74.2%
「毎日同じくらいの時刻に起きている」→84.8%（昨年比－7.7%） 府88.7% 全国90.3%
* 朝食については学力との相関関係が指摘されており、きっちりと朝食を摂るなどの基本的な生活習慣を身につけることが重要です。
* 規則正しい生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）を作ることが大切です。特に、スマホ等に睡眠時間が影響されると指摘されており、使用時間や使い方を管理することが重要です。
※ 朝食を含めた朝の時間を大切にし、笑顔で子どもを送り出してあげてください。
※ 家庭において、基本的な生活習慣の確立にむけてよろしくお願いします。
※ 就寝時刻、起床時刻、睡眠時間にスマホ等が影響していることが考えられます。スマホ等の使い方について、ご家庭でルールの設定をお願いします。

②家庭学習に関する調査

「平日の学校以外の学習時間が1時間以上（家庭教師・塾含む）」
→64.4%（昨年比＋3.2%） 府67.8% 全国70.6%
「家で自分で計画を立てて勉強をしている」
→48.4%（昨年比＋4.4%） 府47.9% 全国52.1%
「家で学校の宿題をしている」→86.8%（昨年比＋3.2%） 府88.9% 全国91.6%
「家で学校の授業の予習・復習をしている」→36.0% 府45.5% 全国55.2%
「1日10分以上読書をする（教科書やマンガ・雑誌は除く）」
→35.2%（昨年比＋5.4%） 府42.5% 全国53.5%
「全く読まない」→57.2% 府43.0% 全国32.9%
* 家庭学習については、昨年に比べ取り組んでいます。宿題もある程度しっかりできています。しかし、予習・復習については大阪府や全国に比べてできていない生徒が多く、関連して自分で計画を立てて勉強している（勉強できる）生徒が半数に達していません。自分で課題を見つけ、計画をたてて学習することが重要です。明日の授業で学習するところを読んでおくだけでも効果があります。まずはそこから取り組みましょう。
※ 家庭学習の定着が必要です。家で決まった時間に机にむかう習慣をつけることが重要です。

③学校生活に関する調査

「学校の規則を守っている」→93.6%（昨年比＋0.1%） 府93.3% 全国95.1%
「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」
→92.8%（昨年比＋5.8%） 府94.5% 全国95.5%
* いじめの質問に対して昨年度より増加してはいるが、府・全国を下回っています。あらゆる場面をとらえ、いじめを見逃すことなく、早期発見、早期解決に向けた取り組みが何よりも重要です。全教職員で年間3回の教育相談、個人面談を活用し、日々の教育活動の中でも子どもの小さな変化を見のがさず、子どもの困り感などを受けとめるなど、迅速かつ適切な対応が行えるよう取り組んでいます。
* 服装の乱れは、心の乱れと言われるように学校の規則を守ることは大切です。
※ ご家庭でも、普段からお子様の様子に注意を払っていただき、少しでもお気づきの事、困っている事があれば、遠慮なく学校にご相談ください。

④自分に関する調査

「自分にはよいところがある」→70.8%（昨年比+3.5%） 府72.7% 全国78.8%
「将来の夢や目標を持っている」→72.4%（昨年比+10.7%） 府69.4% 全国72.4%
*自己肯定感が昨年度より増加していますが、府・全国を下回っています。学校でも生徒の良いところを見つけ、褒め、伸ばす教育を続けていきます。
*「夢や目標を持っている」については、昨年より大きな伸びを見せており、全国・府を上回っています。将来に夢や目標を持つことにより、今、「何が必要か」、「何をすればよいのか」が明らかになり、全ての生活が前向きになると考えています。
※ ご家庭でも、将来のことを語り合うなど、子どもたちが夢や希望を持てる雰囲気作り、話し合う機会を作ってください。

⑤授業で

「授業で課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」
→62.4%（昨年比+5.4） 府68.7% 全国73.8%
「授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」
→37.6%（昨年比-1.2） 府50.9% 全国53.8%
「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」
→57.2%（昨年比+11.4%） 府69.2% 全国76.3%
*授業の中で、話し合う活動や発表する機会を作っている成果が現れていると考えています。本校のめざす「自分の考えを持ち、わかりやすく適切に伝える力をつける」に向け、さらなる取り組みをすすめていきます。
※ 学校では、授業などいろいろな場面で話し合う活動、自分の意見を発表する活動を取り入れていきます。ご家庭でもたくさんの会話ができるような機会を作ってください。

3.【課題解決に向けて】

《国語科より》

【A問題】では「話す・聞く能力」が全国を大きく下回る結果となった。選択式の問題でも全国を下回っていることから、基本的な「話す・聞く能力」が身につけていないと考えられる。今後は授業内で、スピーチや話し合いをする機会を増やし「話す・聞く能力」を育てていきたい。

また【B問題】では、記述式の問題の無解答率が全国に比べ高い結果となった。解答意欲がないというよりも、問題を正確に捉え、自分の言葉でまとめる力が弱いと考えられる。授業の中で、「正確に文章を読み取り、自分の意見を文章にまとめる」力をつけるために、文章を「要約する」ことや、自分の意見や考えを「伝える」ことから、「意見を書く」ことにつなげ、課題克服を図ってきたい。

《数学科より》

【A・B問題】の結果から、基礎的・基本的な知識や技能が充分身につけていない生徒が見られる。また、生徒質問紙の結果から、例年に比べると、数学が好きではない生徒や普段の生活の中で活用できないと考えている生徒が多い。身近な問題を積極的に取り入れ、数学が日常生活でも活かせるような例を与えるなど、興味・関心・意欲を高めるような授業を行っていく必要がある。

また、公式やきまりを学習する際、その根拠を理解しようとしていない生徒が多い。技能の伝達（問題を解くこと）だけではなく、数学的な見方や考え方による学びや活動を積極的に取り入れ、生徒の深い学びにつなげたい。

《理科より》

4領域共通して、実験・観察の授業は行っているが、その技能の定着に不十分さがある。また、学習した法則をもとに計算することや、説明するというような活用力にも課題がある。知識の定着という点においては、生徒の興味・関心が大きく関係していると思われる。

普段の授業における実験・観察が、生徒にとって「楽しかった」だけにとどまっていないか、実験の結果から考察にかけて教師主導の解説のみになっていないか、日頃の授業が生徒にとって興味・関心を持たせられているかなど、常に指導のあり方について教科として研究していきたい。

今後、実験・観察の授業については、生徒が主体的・対話的な考察ができる時間を確保していく。生徒への興味・関心については、授業の内容が日頃の生活とリンクし、世の中に役立っていることなどを伝えることも必要である。また、学習した知識の定着を図るため、授業の最後に学習内容のふり返りを常時取り入れる。

《学習面を通して》

すべての教科を通して、「読む力」「書く力」「伝える力」の定着に課題がある。朝学習では、落ち着いた雰囲気の中で視写活動に取り組んでおり、文章を読み・書く力を身につけている。また、自分の考えを相手に伝える力をつけるため、授業ではペア討議、グループ討議、発表の機会を多く取り入れるよう意識している。すべての授業において、「人の考えをきちんと聞き、自分の考えを整理し、きちんと伝える」ということに重点をおいた授業をめざし、これからもより充実した教育活動に取り組んでいきたい。

《全体を通して》

生徒質問紙による調査では、学力の定着、指導方法の工夫に課題が見られ、今後努力していきたい。学力向上に向けて、家庭学習の定着には、自学自習力が絶対に必要不可欠である。本校では放課後「ゆめ教室」を設定し、自学・自習の場を開設している。また、テスト前には全学年で「質問会」などの勉強会を実施している。学力の定着に向けて、毎日、短時間でも継続して学習する習慣が何よりも重要である。教科においては「週末プリント」を配布したり、計画的な課題を設定するなど家庭学習のきっかけとなるような取り組みを実施している。まずは、テスト前にテスト勉強計画表を作成し、一人でやることができることから始めてみて、困った時、わからない時は必ず担任・教科の先生にきいてほしい。

《最後に》

今回の調査結果を踏まえ、本校における子どもたちの現状（学力面・生活面）を把握するとともに、成果と課題等について検証・研究し、今後の方策について取りまとめました。

本校の現状として、国語【A・B】数学【A・B】のすべてで、全国・府に比べて低かったのですが、その差が縮まっています。特に国語Bでは、5%も差を縮めました。本校が取り組んできた成果が表れてきているものと考えています。

今後も、課題解決に向けて、プロジェクター（ICT）の活用、考えをまとめ書くこと、話し合い活動、発表する場を積極的に取り入れるなど、主体的、対話的な深い学びへとつなげていきます。

一方で、子どもたちの学力向上・健やかな成長には、基本的生活習慣の確立、家庭学習の定着は欠かせません。そこに大きな影響を与えているだろうスマホ等の扱いについて、学校では、ネットの危険性を中心に講習会等を実施しました。特に家庭でのルール作り等がとても重要となってきます。スマホ等の使い方・使用時間等、ご家庭でももう一度話し合っていただき、子どもたちがそれらと上手に付き合っていけるようご協力をお願いします。

学校と家庭が連携を図りながら、子どもたちと向き合い、「わかりやすく伝える・子どもの思いを聞く（子どもが話せる環境づくり）」ことが何よりも大切です。子どもたちの健やかな成長のためにも、学校・家庭・地域がともに歩みながら取り組んでいきたいと思えます。今後とも、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。